

## 「権力は悪魔にひれ伏して」

2014年4月11日

主イエスが神の国の宣教活動に入る前、悪魔から荒れ野で誘惑を受けている。宣教活動を始めるに当たり、基本的な姿勢の確認を求められた出来事と理解してよいであろう。

その悪魔から受けた誘惑の一つは、高い山に連れていき、世のすべての国々とその繁栄ぶりを見せて、「もし、ひれ伏してわたしを拝むなら、これをみんな与えよう」と言ったという誘惑である。聖書では、地上の権力、権勢は悪魔にひれ伏すことによって、与えられると捉えている。権力に抑圧され、苦しんだ聖書記者の率直な実感であろう。

今日、悪魔はリアリティーをもって認識されることは少なくなった。悪魔とは、愛と正義と公平を嘲笑い、人間を否定する諸々の力と考えて間違いない。この悪魔は、言葉は違っても、自分自身を含め、いつの世にも存在する。権力は、悪魔にひれ伏し、人間を否定するところに成り立つ。聖書は、この視点で権力を見なさいと忠告している。

安倍政権は、アベノミクスと言われる経済浮揚政策から始まった。誘導された円安、株高に、利益を得た人々は小躍りして喜んだ。経済が、いつの世でも国民の心を捉える。英国のサッチャー、米国のレーガンの二人は大きな支持を得たが、その後は、格差に苦しむ結果をもたらした。小泉政権とその後も、同様である。福島原発事故終息の見通しのない中、原発輸出が承認された。豊かさが保障されれば、何をしてもいいのか、という疑問は消えない。

安倍政権は、50%前後の支持率を得て、今、国家主義を前面に出し、戦争のできる国へとまっしぐらに突き進んでいる。特定秘密保護法を制定し、集団的自衛権の行使を憲法解釈によって可能にしようともくろみ、武器輸出三原則も撤廃しようとしている。靖国参拝、教育への国家干渉、公共報道と言われるNHKの役員人事に見られる超右傾化など、外堀も埋められてきた。国民主権、民主主義、平和を謳う憲法は消え入りそうになっている。

安倍首相は、もちろん、悪魔にひれ伏しているなどとは思ってもない。日本の将来を考え、良いことをしているという確信をもって進めている。

日本は岐路に立たされている。歴史の将来を見通し、平和を実現する道筋を立てることが急務ではないか。主権をもつ国民の「民主力量」を高め、ていくことが「鍵」となる。